

教職を目指す学生の進路選択に 資する各種の機会の提供についての一考察

Examination of Career Pathway Options and Opportunities Provided for Students Seeking to Enter the Field of Education

開 仁 志
HIRAKI Hitoshi

I 目的

富山短期大学幼児教育学科（以下本学）では、幼稚園教諭2種免許状及び保育士資格を取得できる。学生は、複数資格を取得することで、卒業後の進路の選択の幅が広がることから、進路について悩むことが多い。すなわち、幼稚園教諭として幼稚園で働くか、保育士として保育所や施設で働くかという悩みである。

教育実習や保育所実習、施設実習を経験しているので、ある程度のイメージはあるものの、自分が職場で働くというイメージをもつことがなかなかできないため、求人が来てもなかなか決定できずにいるように見える。

そのような状況の中、本学では、教職の意義や役割、研修、進路指導に関する授業として、「保育者論」を授業科目としている。2005（平成17）年度までは、幼稚園、保育所、施設の園長や所長を保育者論の授業の外部講師として招き、講義してもらっていた。

しかし、授業実施後、担当教員の話し合いの中で、学生にとって、園長や所長の話を聞くよりも、もっと身近な年齢の若手から中堅クラスの人材を講師として招くほうが、将来像をイメージしやすいのではないかという意見が交わ

された。

また、幼稚園、保育所、施設に対象を限定せず、幅広く子どもと関わりをもつ人材を講師に招くことにより、進路選択の幅が広がるのではという意見も交わされた。

以上2点の反省を踏まえて、2006（平成18）年度からは、それまでの形態を変えて保育者論を実施し、学生の進路選択に関する影響について考察する。

II 方法

- 1 保育者論における外部講師を園長・所長クラスから若手中堅クラスに変え、その影響を学生の感想から読みとる。
- 2 保育者論における外部講師を、幼稚園、保育所、施設に限定せず、幅広く子どもと関わりをもつ人材を講師に招くようにし、その影響を学生の感想から読みとる。

III 結果及び考察

- 1 園長・所長クラスから若手・中堅へ

① 幼稚園教諭

2005（平成17）年度の外部講師は、A幼稚園

園長である。その講義内容は、幼稚園の役割、幼稚園教諭の職務内容などであるが、園長の視点から新人教諭に求めるものという視点で講義が行われた。

学生の感想を挙げると、以下のような感想がある。

- a 幼稚園の役割についてよく理解できました。子ども達の育ちを支える重要な場所だと再確認しました。初めて保護者と離れて幼稚園に来る子ども達の心に寄り添いたい。
- b 新人にはどんなことが望まれるかよく理解できました。もっと、しっかりしなくてはいけないと思います。
- c 学生の間に、自分の能力を磨き、保育技術を上げておかなければと思いました。もっと教材について学び、自分でも作ってみようと思います。

学生達は、幼稚園の役割の基本を知り、園長から見る新人教諭のあるべき姿、学生時代にやっておけばよいことを学んでいる。しかし、幼稚園教諭に対するやりがいを感じながらも、園長からの話ということから、どこか緊張感もち、周りからも厳しい目にさらされる新人の姿を思い、感想を書いている様子が窺われる。

また、幼稚園教諭の卵といってもよい学生たちにとって身近な存在というよりも、長く保育に携わった上での経験から諭されているという気持ちになっているように推測される。

2006（平成18）年度、2007（平成19）年度に招いたB教諭（中堅教諭）の講義内容は、新人1年目の出来事を中心に話があった。子どもへの接

し方、保護者との出会いなどの具体例から、うれしかったこと、悲しかったこと、悩んだこと、失敗したことなどを織り交ぜた内容であった。

学生の感想を挙げると、以下のような感想がある。

- a 新人の1年目の様子がよくわかった。私だったらどうするかと自分を振り返りました。子どもを預かるという責任、研修が近づくにつれて不安がいっぱいになると思います。でも、気負わず、肩の力を抜いて、子どもと同じ目線で援助していけるような幼稚園教諭になりたいです。
- b 先生の子どもを思う人柄が伝わってきました。幼稚園教諭は、子どもとの関わりを通して、日々一緒に成長していけるのだと思った。子ども達一人ひとりの個性を大切にしたい関わり方が大切だとわかりました。幼稚園教諭は、自分にどんな援助が求められているのかを考え、その子への関わり方を自分なりに見出していくことが大切だと実感できました。
- c 先生の話はとても感動的でした。子どもと本当に通じ合えた瞬間、とても幸せなのだろうと思います。先生のようになれるように頑張りたいです。
- d B先生はいつもニコニコしていて優しいような先生だなという印象だったので、今日話を聞いて、先生もいろいろ悩まれることもあるのだなと思いました。
- e 現場での事例を通して、大切にしたいこ

と、こんな関わりをしたらこうなったなど具体的な話を聞くことができて、改めて幼稚園教諭って素敵だと感じることもできた。先生のエピソードが心温まるものばかりで、こんなふうな幼稚園教諭になりたい、こんな関わりができればよいと思うことが多かった。

具体的な事例を交えてあること、講師が学生にとって身近な年齢であること、話題の内容が新人1年目ということ、失敗談を交えてあることで、学生は親近感をもち、自分の新人1年目の姿とイメージを重ね合わせながら聞くことができたようである。

また、身近な年齢ということもあり、目指す幼稚園教諭像を得やすい効果も感想から窺われる。



写真1 楽しい話に自然と笑顔がこぼれる

② 保育士

2005（平成17）年度の外部講師は、C保育所長である。その講義内容は、保育所の役割、保育士の職務内容などであるが、A幼稚園長と同様、所長の視点から新人保育士に求めるものという視点で講義が行われた。特に、最近の新人保育士に見られる特徴として、基本的な生活習慣

が身に付いていないことや、遊びをあまり経験していないこと、積極性が足りないことなど厳しい指摘もあった。

学生の感想を挙げると、以下のような感想がある。

- a 保育士の役割を自覚して、保育を進めることの大切さを学びました。
- b 子育て支援の大切さがわかりました。働く保護者の方の力になりたいです。
- c 挨拶や、そうじなど基本的な生活習慣を見直す必要があると思いました。日々心がけていきたいです。
- d 改めて、保育士の大切さ、大変さがわかりました。

学生は、自分たちを振り返り、足りない指摘されたところを重く受け止めている様子である。保育士の役割についても深く学んだと思われる。しかし、所長からの言葉ということから、自分のなりたいと目指す将来像というより、こうあらねばならない将来像として受け止めたのではないかと考える。

それに対し、2006（平成18）年度に招いたD保育士（新人保育士）の講義内容は、障害がある幼児との1年間の交流をもとに話があった。熱心な関わりを続けることで、幼児と心が通じ合うようになってきたこと、幼児の成長と共に、自分自身が保育士として成長できた実感を得たことなどの内容であった。

学生の感想を挙げると、以下のような感想がある。

a 自閉症の子との出会いを聞いて、私が夏休みの自主実習で行った保育園のことを思い出しました。その保育園の先生の様子を見ていると確かに大変そうでしたが、顔はいつもニコニコして一生懸命に話しかけたり、関わりをもとうとしておられる姿を見て感動しました。今日の話を聞いて、改めて保育士は素晴らしい職業だと思いました。

b あきらめずに関わりを続けること、その子にあった援助方法を考えることが大切だと思いました。先生が一生懸命に試行錯誤されているお話を聞いて、私もそのように保育士として頑張る中で、子ども達の姿の一つ一つが幸せに感じられるように成長していきたいと思います。

c 若い先生の立場からのお話が聞けてとても良かったです。D先生が、最後、1年間やり遂げて、保育士になってよかったと思っているという言葉がとても印象に残っています。研修の説明もわかりやすかったです。様々な研修に参加して、自分を磨きたいと思います。

d 第2のお母さんのような存在でいたいという思いがすごく素敵だと感じました。人間関係はとても大切だと思います。保護者の方や職員同士のコミュニケーションは新人だと気を遣ってしまい難いそうですが、積極的に関わりをもっていきたいと思います。

学生は、自分の経験とも重ね合わせながら、保育士にやりがいを感じるD保育士に共感し、

自分もそうありたいという思いを持っている様子である。将来目指す保育士像を得ているのではないかと考える。



写真2 ゲームも交えて
保育の楽しさを伝える

③ 施設

2005（平成17）年度の外部講師は、E施設長である。その講義内容は、施設の役割、施設保育士の職務内容などである。

学生の感想を挙げると、以下のような感想がある。

a 地域を支える施設の役割がわかりました。

b 施設に通っている利用者の実態がつかめました。また、保育士の勤務態勢についてもわかりました。

c 学校・地域・ボランティア・里親との関係について理解が深まりました。その4つをつなぐ役割が重要だとわかりました。

d 保育士として健康的で、子どもへ心を寄

せることが望まれることがわかり、勉強になりました。

学生は、施設の役割や、そこに通う利用者の様子をつかみ、望まれる保育士像についての理解を深めている。

2006（平成18）年度に招いたF保育士（中堅保育士）の講義内容は、障害がある利用者といかに関わるかという具体的なものであった。発達障害の特徴、その援助の在り方、工夫点などがパワーポイントを用いて、説明された。

学生の感想を挙げると、以下のような感想がある。

- a 私もなかなか子どもが叱れないので、誉めるだけでなく、叱ることもできる保育士になりたいと思いました。
- b 保育士として子どもの障害を認知し受容することの大切さ、そして、保護者の方が障害を受容するまでの支援を大切にしなければならないことがわかりました。
- c 授業で障害について少しは学びますが、実際の現場でどのように工夫して援助が為されているかを知りませんでした。今日は、事例を具体的にお話いただいたので、とても勉強になりました。
- d 障害のある子どもが1日の生活を送るときに、絵や文字のカードを使って順番をわかりやすくするなど、参考になるお話を聞くことができました。保育所や幼稚園でも障害がある子どもはいます。その子ども達のためにも、専門性を磨きたいと思います。

- e 施設における保育士の在り方を改めて学ぶことができました。健常児、そして障害児分け隔て無く保育士は同じ気持ち、愛情をもって接していくことが大切だと強く感じました。

学生は、現場で障害がある子どもと接している先輩保育士の姿から、施設における保育士の役割をイメージ化できたのではないかと考える。そして、障害がある子どもに対しての援助を自分で身につけたいという自覚も生まれてきていると感じる。自分が目指したい施設における保育士像を得ているのではと考える。

以上、幼稚園、保育所、施設の講師を園長・所長クラスから若手・中堅へ変えた場合の学生の感想の変化を追ってみた。

その中で見えてきた共通点は、以下の通りである。

- a 学生にとって、講師は自分たちと近い年齢の方が、親しみを感じ、将来の自分と重ね合わせ、目指す幼稚園教諭像、保育士像のモデルとしてとらえやすい。
- b 失敗談を語ってもらうことにより、完璧でなくてはいけないという幼稚園教諭像、保育士像から、悩み考え成長していく幼稚園教諭像、保育士像に変化する。
- c 園長、所長になって、自分の初任の頃を振り返って話すことは難しいと思われる。若手、中堅の幼稚園教諭、保育士の方が、記憶が新しく、講義内容に織り込みやすい。

本学では、保育者論を卒業間際の2年後期に行うこともあり、学生は、少し上の先輩からのアドバイスとして、受け止めることができたようである。

以上のことから、講師を園長、所長クラスにするメリットとしては、以下のことが考えられる。

① 幼稚園や保育所、施設の地域における役割や、保育における重要なポイントなどを長い経験からくる確かな視点から伝えてもらうことができる。

② 園長・所長といった採用者側から見た新人幼稚園教諭・保育士に望まれる資質能力などが明確に示され、採用を控えている学生にとって刺激になる。

それに対し、若手・中堅クラスの幼稚園教諭・保育士を講師に迎えるメリットは以下の通りである。

① 学生と年齢が近いことから親しみや共感を得やすい。

② 実際に毎日子どもとかかわっている立場からの話なので、自分の実習体験と重ね合わせ、イメージをもちやすい。

③ 学生より少し上の目指すべき先輩といった意味で、将来目指す幼稚園教諭像、保育士像のモデルとなりやすい。

講師を園長・所長クラスにするか、若手・中堅クラスにするかで、以上のような特徴があることがわかった。

2 子どもと関わりをもつ多様な講師

学生にとって進路選択の幅が広がることを期待して、2006（平成18）年度、2007（平成19）年度は、幼稚園教諭、保育所・施設保育士以外の講師として、以下のような講師を追加した。

- ・ ベビーシッター会社代表
- ・ 子育て雑誌編集長
- ・ 児童館館長代理
- ・ 障害児教育系大学教員
- ・ 保育系大学教員
- ・ 養護学校教員

以下、各講師について、講義内容と学生の感想を挙げ、進路選択への影響についての考察を試みる。

① ベビーシッター会社代表

ベビーシッターの概要と、保育所保育士との役割の違いについて説明があった。ベビーシッターの利用状況、ベビーシッターとして働くにはどのような資格がいるのか、家庭との連携の在り方などについて具体的な内容で講義が行われた。

以下は、学生の感想である。

a 今まで、「ベビーシッター」という言葉は知っていましたが、詳しい話を聞くのは初めてで、大変興味深い話を聞くことができました。同じ保育者であっても、保育園や幼稚園とは違う喜びや苦労があることを知り、驚きました。

b 「ニーズに合わせる」という面はとても大切なのではないかと思います。時代のニーズ、利用者のニーズ、様々なニーズへの対応は重要な点です。ベビーシッターの

重要な点は、家庭に入るところだと思いました。ベビーシッターを利用する人の理由は様々で、様々な思いがあると思います。その中で、ベビーシッターは適応力や柔軟性が必要になってくるとわかりました。

- c 自分もベビーシッターに興味があったので、真剣に聞きました。子どもと1対1で長期間にわたり関わることもあって、成長を継続的に見ることができるのが魅力的に感じました。

学生は、教育実習や保育実習で、幼稚園、保育所、施設を経験するが、ベビーシッター業務を経験したことは無い。それ故に、講義内容は初めて聞くことが多く、新鮮な驚きとなったようである。学生のイメージとして、これまで、保育士の仕事と言えば、保育所か施設という概念しか持っていなかったが、ベビーシッターという選択肢が一つ増えたように感じる。

中には、ベビーシッターに興味をもっている者もいるので、将来、ベビーシッターの進路を選択する者も出てくるのではないかと考える。



写真3 真剣にメモをとる学生

② 子育て雑誌編集長

子育て雑誌を作る際の基本的なコンセプトや、ポイント、注意点、取材、編集の苦労などの話が講義内容であった。子育て雑誌ということもあり、保護者との接し方についての言及もあった。

以下は、学生の感想である。

- a この子育て雑誌は、自分も書店で見かけたことがあります。編集の裏話も交えたお話を聞き、雑誌はどのように作られるのかと視野が広がりました。
- b お母さんがどのような悩みをもっているのかについて知ることができてとてもよかったです。また、子育て雑誌もたくさんあり、いろいろな形態があることがわかりました。
- c ストレスの原因が子どもという意見が多くてびっくりしました。でも、そういうお母さん方のストレス、悩みを聞いて、支援したいと思いました。そのために、お母さんがストレスや悩みを話したいと思ってくださるような幼稚園教諭や保育士になりたいと思います。
- d 保護者とのコミュニケーションの取り方についてとても参考になりました。私はまだ結婚していないので子どもはいませんが、自分に子どもがいるいないではなく同じ女性として接していくことの大切さについて分かりました。

学生は、子育て雑誌の作り方を聞く中で、保護者のニーズをつかみ、保護者の気持ちを考えてコミュニケーションをとる重要性を学んだよ

うである。このことは、保育現場に出てからも保護者との関わりの上で大切な視点となることだろう。

また、学生の中には、文章を書くことが好きな者がおり、雑誌の編集に携わりたいと考え、質問を積極的にする者も現れた。進路のモデルを一つ得たようである。

③ 児童館館長代理

児童館の概要、児童館で行われる行事や、遊びや素材の選び方、企画、運営の仕方などについて説明が為された。また、実際の遊びを交えた講演で、学生も真剣になって遊ぶ姿が見られた。

以下は、講義の後の学生の感想である。

- a 児童館の概要や役割が分かりました。ただ、遊びの場を提供しているだけではなく、子どもを取りまく様々なネットワークに関係していることがわかりました。
- b 昔の遊びを実演していただき、遊びの大切さを再確認しました。子ども達に、工夫して遊ぶことや、体をいっぱい動かして遊ぶことを進めていきたいと思います。私自身も、親の世代に流行った遊びに触れ、楽しむ機会をつくっていかうと思います。
- c 1ヶ月に1度の割合でイベントが企画されていることを知り、いつも新鮮な気持ちで遊ぶことができ、来館者のリピート率を高めていることがわかりました。児童館で自分も働いてみたいという気持ちになりました。とてもおもしろそうです。

学生は、児童館の概要を聞き、遊びを実践す

るうちに、そこで働きたいという思いも高まったようである。

実際に後日児童館から職員募集があった際には、何名か受験し、合格した。授業が進路選択に影響した面もあると推測する。



写真4 手遊びの実践

④ 障害児教育系大学教員

障害児教育を専門とする大学教員を外部講師として招き、講義を行った。障害に対しての周囲の受け止め方について説明があり、今後障害についての専門的な知識・援助技術を持った幼稚園教諭や保育士が必要とされることが講義の中で強調された。

以下は、学生の感想である。

- a 私は、自閉症の人が多く入所している施設に実習に行ったので、とても実感できました。自閉症への理解がまだまだ進んでいないように感じます。障害の受け止め方について、深く考える機会になりました。
- b 障害がある子どもをもつ保護者へのサポートの仕方を学ぶ必要があると感じました。今日の講義の中で、障害について正しい知識を持って、嘘や間違った言葉掛けを

しないようにしたいと思います。

- c 障害について何も知らずに偏見をもったり、何もできないと決めつけて接したりすることは、とても失礼なことだと思います。障害についてもっと学んで専門性を深めたいと強く思いました。

学生は、障害の受け止め方についての具体的なデータや障害をテーマにした絵本を通して、より深く障害に対する理解を深めている。自分の将来の幼稚園教諭、保育士像として障害に対する専門的な知識・技術をもち、子どもやその保護者に対して正しい知識を伝えていくことができる保育のプロフェッショナル像を具体的に思い浮かべたようである。

⑤ 保育系大学教員

幼稚園教諭、保育士の経験がある大学教員を外部講師として招いた。保育観の在り方、信頼関係、自分を好きになり、信じる大切さなどを強調された。

以下は、学生の感想である。

- a 授業では習っていた保育観を違った視点から具体的に教えていただいた。自分なりに保育観をしっかりとつことの大切さを学びました。
- b 自分を好きになること、自信をもつことが、子どもを好きになり、子どもを信じることにもつながると感じました。私も生き甲斐をもって生活するようにして、充実していきたいです。
- c 働いてからも自分なりに目指したい先輩

を見つけて近づけるように努力することが大切だとわかりました。

学生は、具体的な事例と共に、保育観や自己像について説明を受け、将来になりたい幼稚園教諭、保育士像について、立ち止まり、深く考える機会となったようである。

⑥ 養護学校教員

幼稚園教諭、小学校教諭、養護学校教諭の3つの学校種を経験した教員を外部講師として招いた。学校種が変わる度に感じる文化の違いにとまどいながらも、その違いを大切にとらえながら教育を行っていることや、保護者との出会いが自分自身を変え、教職の意義を再確認できたことなどの話があった。

以下は、学生の感想である。

- a 幼稚園、小学校、養護学校、それぞれ共通するところもあれば、教育に違いがあることもわかり、勉強になりました。
- b 先生の小学校で担任をしておられた時の話にとっても感心しました。先生は、本当に子どものことを第1に考えておられるなど感じ、私も先生のような人に出会いたかったと思いました。
- c 保護者とどのような関わりをするかで、支えにもなり、悩みにもなることがわかりました。私も、保護者の話をよく聞くことができるような聞き上手になりたいと思います。

学生は、学校種による教職の在り方の違いを講義内容から読みとりつつ、常に向上心や柔軟

性を持ち、また、保護者とのかかわりを大切に
した幼稚園教諭や保育士になることを思い描い
ているように感じる。



写真5 コミュニケーションスキルを磨く
ワークショップ

以上、幼稚園、保育所、施設に限らず、子ど
もとかかわりをもつ外部講師を招いた場合の学
生の感想を追ってみた。

その中で見えてきたメリットは、以下の通り
である。

- a 教育実習や保育実習で経験していない職
種の外部講師を招くことで、多様な職業に
対する理解が進み、将来の進路選択の幅が
広がる。中には、実際に就職を決定する学
生も出てくる。
- b 様々な経験をもつ外部講師を招くことに
より、専任の教員だけでは伝えきれない現
場の具体例を通して、教職の意義や教員の
役割、教員の職務内容としての研修の在り
方などについて具体的なイメージを得てい
る。

以上のことから、幼稚園、保育所、施設に限

定せず、幅広く子どもと関わりをもつ人材を講
師に招くことは、多様な職業の理解につなが
り、自分の将来像を具体化し、様々な視点から
教職を捉え直すことで意義を再確認し、進路選
択に資する機会になると考える。

まとめと今後の課題

教職を目指す学生の進路選択に資する機会を
提供するためには以下の3つのポイントがある
ことがわかった。

- ① 学生にとって身近な年齢や立場の人材を
招くことで親近感を増し、学生が将来像を
得やすくなること
- ② 多様な職種の人材を招くことで、進路選
択の幅が広がること
- ③ 多様な職種の話を聞くことで、教職の意
義を再確認できること

今後の課題としては、外部講師として招く人
材の確保がある。地域において第一線で活躍す
る人材を講師として招くためには、絶えず、授
業担当教員自身がアンテナを張り続け、情報を
キャッチし、また、講師を引き受けてもらえる
ような信頼関係を築いておく必要がある。今
後も、学生の進路指導に資する各種の機会を提
供するための授業を工夫改善していきたい。

謝辞

保育者論の授業に講師としてお越し頂きまし
た諸先生方に、心からの感謝を申し上げます。
ありがとうございました。

(平成20年1月15日受付、平成20年2月15日受理)